

年末・年始 セーフ ワーク

Safe Work

推進強調期間

年末年始における死亡災害の撲滅を目指し、
建設現場に対して集中パトロールを実施します！

期間 令和5年11月21日（火）～令和6年1月31日（水）

死亡災害では、依然として建設業が最多（令和5年は10月末日現在15人。全業種33人の約半数。）であることから、**集中的な建設現場の指導**を実施します。



安全衛生管理活動の「4K」の徹底をお願いします！

～ 皆様へのお願い ～

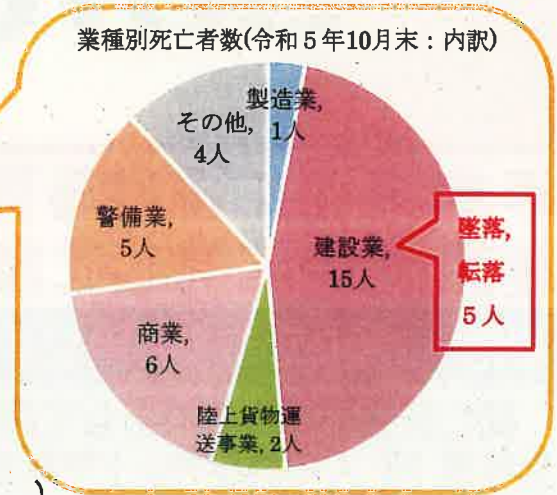
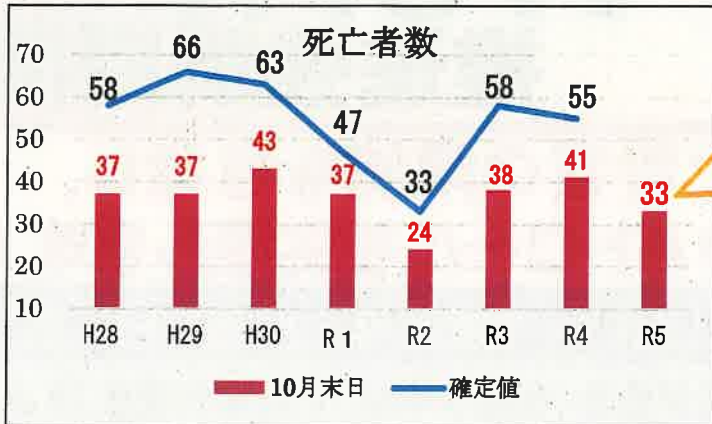
- ① 年末・年始の繁忙期をとらえた計画的、かつ、安全衛生に配慮した事業の運営
- ② 事業場内に「Safe Work」のロゴマークを掲示することなどによる労働災害防止の機運の醸成
- ③ 各関係団体幹部、各事業場の経営トップによるパトロールの実施
- ④ 安全衛生管理活動の的確な実施及び活性化に向けた取組
- ⑤ 墜落・転落災害、行動災害防止を始めとする安全衛生意識の向上等を目指した安全衛生教育の徹底（災害事例の共有や体験型安全衛生教育の実施等）
- ⑥ 各業種、各事業場における過去発生した災害を踏まえた労働災害防止対策の徹底
- ⑦ 化学物質のリスクアセスメントの実施を含めた化学物質管理の徹底
- ⑧ 積雪・凍結等、冬期における転倒防止、交通労働災害防止対策の徹底
- ⑨ 大掃除や棚卸し等の作業における脚立・はしごからの墜落、転落防止対策の徹底
- ⑩ その他、本強調期間にふさわしい創意工夫を凝らした取組



令和5年（10月末日現在）の東京労働局管内の労働災害発生状況

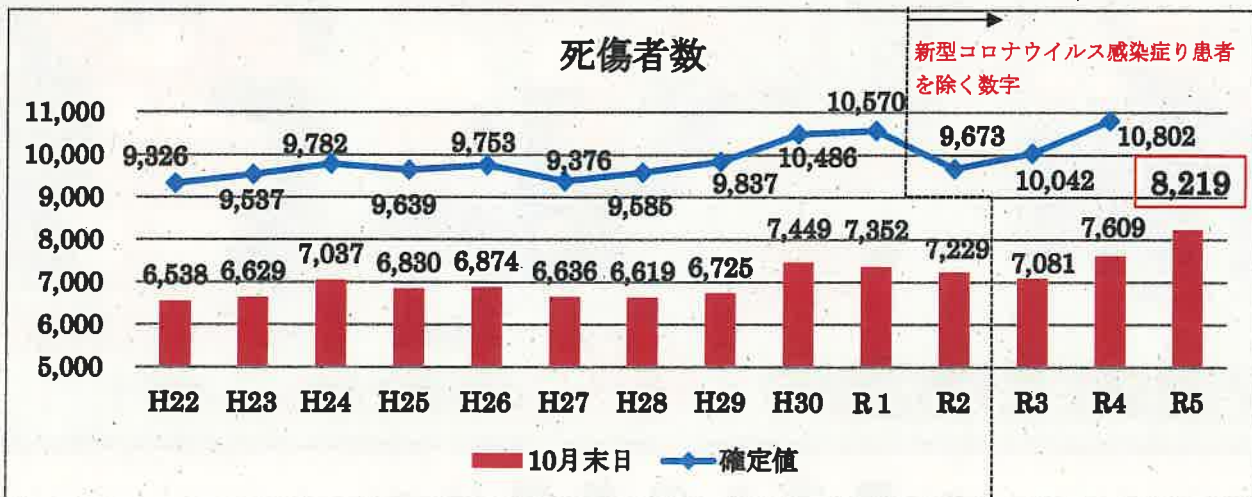
死亡者数（33人 新型コロナウイルス感染症り患者を除く）

- ・ 製造業1人、建設業15人、陸上貨物運送事業2人、商業6人、警備業5人など。
- ・ 全業種で「墜落、転落」が最も多く9人死亡。



死傷者数（8,219人。新型コロナウイルス感染症り患者を除く。）

- ・ 前年同期を上回っており、**年間1万人を超えるおそれ**。
- ・ 前年同期に比べ、製造業、建設業、運輸交通業、社会福祉施設、飲食店において増加している。
- ・ 事故の型では「飛来、落下」、「高温・低温の物との接触」、「崩壊、倒壊」が特に増加。



年末・年始に発生した災害事例

製造業
(年齢：40歳代)
プレス機械による作業中に誤ってペダルを踏んでしまい、金型に右手人差し指を挟んだもの。(休業2ヶ月)

建設業
(年齢：40歳代)
木造2階建て解体工事にて2階床の切断作業中、足を置いた板を踏み抜いて墜落し、足首を骨折した。(休業2ヶ月)

運輸交通業
(年齢：50歳代)
トラックの荷台から後ろ向きで降りる際に目測を誤り、昇降用のステップを踏み外し、腰部から転落したもの。(休業3ヶ月)

小売業
(年齢：50歳代)
惣菜作業の厨房内移動中にバランスを崩し、支えようとした手がフライヤーに入ってしまった火傷した。(休業1ヶ月)

出典：災害事例は労働者死傷病報告、挿入絵は職場のあんぜんサイトより（一部加工）

労働災害発生状況、労働災害防止に関するパンフレット等は東京労働局ホームページをご覧ください。